

2012 年度 東京蜘蛛談話会総会例会

1. 日時 2012年4月29日(日) 10時より(開場9時30分)
2. 場所 東京環境工科専門学校 〒150-0011 東京都渋谷区東 2-5-3
「JR 渋谷駅」東口(東急文化会館側)より、「学 03 日赤医療センター行」バスにて約 5 分、「國學院大學前」下車、徒歩 1 分、170 円
3. 連絡 当日は、東京環境工科専門学校の電話が使用できないので、緊急時には以下に連絡ください。加藤輝代子 090-7012-6458 初芝伸吾 090-6156-8378
4. その他 プロジェクター、OHP 等用意いたします。
5. 講演をご希望の方は、演題と使用希望機材(スライド、OHP、コンピュータ)を事務局初芝までお知らせください。
〒186-0002 東京都国立市東 3-11-18-203 有限会社エコシス 初芝伸吾
mail: hatsushiba-ecosys@h8.dion.jp
Tel: 042-501-2651 Fax: 042-501-2652

- 渋谷駅東口から徒歩 15 分です。坂道がありますので、バスを利用した方がよろしいかと思います。
- 東京環境工科専門学校及びその周辺には駐車場ありません。



東京環境工科専門学校

東京蜘蛛談話会 2011 年度採集観察会

1. 期 日： 第 4 回 2 月 12 日（日）
2. 場 所： 八王子城址
3. 集 合： JR 高尾駅北口 10 時集合
4. 世話人： 初芝伸吾・甲野 涼

※ 京王バスで霊園前下車，20～30 分程度で現地に着きます（以前の横沢入りまでの徒歩と同じくらいの距離です）．歩くのが面倒な方は，タクシー（相乗り）で行くことも可能だと思います．連絡先初芝携帯 090-6156-8378

東京蜘蛛談話会 2012 年度採集観察会

1. 期 日： 第 1 回 2012 年 5 月 13 日（日） 第 2 回 2012 年 7 月 8 日（日）
第 3 回 2012 年 10 月 14 日（日） 第 4 回 2013 年 2 月 10 日（日）
2. 場 所： 神奈川県小田原市いこいの森・わんぱくランド
3. 集 合： 東海道線小田原駅西口（新幹線側）を出たところのバス停
午前 10 時 20 分発「いこいの森」行きバスに乗車します．
所要 15 分，終点下車．
4. 世話人： 池田博明
携帯 TEL：090-9670-1525（ほとんど携帯していませんが）

※ バス料金は片道 280 円．バスは 1 時間に 1 本しかありません．わんぱくランド（こども遊園地）は樹高 5m でのムツトゲイセキグモの発見地ですが，冬の卵のう以外は確認されていません．観察コースはわんぱくランドを横断して「いこいの森」へ入り，「いこいの森」からバス停へ戻る予定です（4 月に下見をしてコースを確認します）．

東京蜘蛛談話会の会費は，一般 3800 円，学生 2000 円です．

郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします．

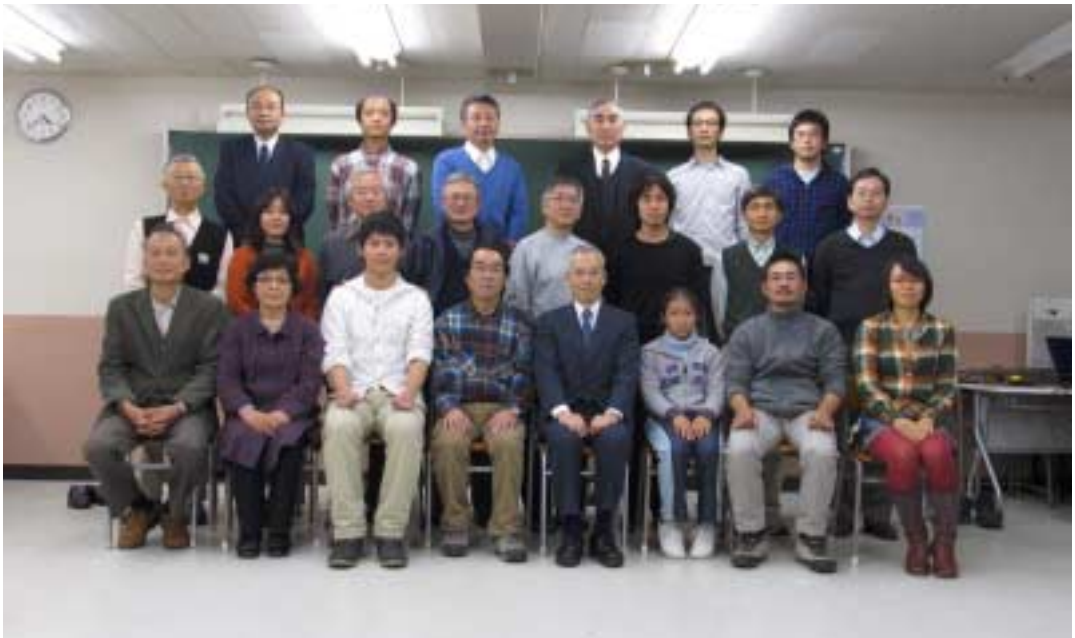
会費のことは：会計担当 安田明雄 〒231-0861 横浜市中区元町 5-219

TEL：045-641-0763 E-mail：kobato@gol.com

※談話会の会費は前納制となっております．本号に請求書と振込用紙を同封いたしましたので来年度分までの会費の納入をお願いいたします

東京蜘蛛談話会例会

2011 年 12 月 4 日 東京環境工科専門学校にて
参加者一同



(1) 熱帯のハエトリ
とユウレイグモ

池田博明



(2) ネコグモの産卵
行動 オシリから？

安藤昭久



(3) 大津波とイソコ
モリグモ

谷川明男・新海 明



(4) アシブトヒメグ
モの花粉食

浅間 茂



(5) 赤城山のジョロ
ウグモ

林 俊夫



(6) 電子顕微鏡で見
たクモの微細構造(11)

梅林 力



(7) 御蔵島紀行

笹岡文雄



(8) 小田原わんぱく
らんのムツトゲイ
セキグモ

吉田嗣郎



東京蜘蛛談話会編『クモ基本 50 種 野外識別図鑑』

東京蜘蛛談話会 2012 年度合宿のお知らせ

2012 年度の合宿は、東京、中部、三重、関西の 4 同好会合同で、次のように実施いたします。第二回全国統一合宿です。みなさん奮ってご参加ください。

1. 期 日： 2012 年 7 月 27 日（金）から 29 日（日）
2. 場 所： 飛騨地方
3. 宿 舎： 山久（やまきゅう）高山市天性寺町 58 0577-32-3756
4. 費 用： 宿泊費(2 日間の昼食も含む)に備車費(燃料費)等を加え、1 泊 1 万円
くらを予定しています。
5. 予 定： 27 日 夜間 宿付近の天性寺周辺
28 日 午前 奥飛騨温泉郷の足洗谷、
午後 栃尾温泉近くの浦田川河川敷
(暑さにより変更することあり)
夜間 高山城周辺
29 日 一宮地区 県道清見線周辺及び一宮地区水田周辺。
4. 申込み： 次号で再度ご案内いたしますが、申し込みの期限は 5 月末を予定して
います。それとは別に申し込みは随時受け付けております。
5. 担 当： 初芝伸吾 HATSUSHIBA, shingo
連絡先は以下の通りです。よろしくお願いします。

有限会社 エコシス

mail: hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

〒186-0002 東京都国立市東 3-11-18 203

Tel : 042-501-2651

Fax:042-501-2652

写真募集

談話会では初心者を使いやすい図鑑が欲しいというニーズに応じて『クモ基本 50』を編集することになりました(2011 年総会にて決定事項)。自費出版ではなく、出版社からの出版を目標に各社に交渉しましたが断われ続けており、いまのところ出版社の目途は立っていません。しかし、編集作業は開始することになり、掲載種の選定を終え、写真を会員の方から募集することになりました。以下のクモの写真をお持ちでクモ基本 50 野外識別図鑑に掲載して欲しいと思いますの方は写真を池田までメールで送信して下さい(メルアドは mail2-ikeda+at+nifty.com です。+at+は半角のアットマークに変えて下さい)。なお投稿された写真の掲載可否は複数の編集者(初芝・仲條・池田)により決定します。写真を使い回しするようなことは致しませんが、掲載可否の理由にはお答えできませんし、異議申立てをされても困ります。使用した場合は写真の買い取り料をお支払いします(買い取り金額はまだ決められません。写真の著作権は撮影者本人に帰属します)。なお、図鑑を無料で配布する計画はいまのところありません。無料ほど無責任なものはないからです。

なお下記の種の選定は談話会での観察会の出現頻度を参考に決めました。屋内種とレアな種は別の基準で選定しました。基本のメインとする 50 種はオスとメスの写真を掲載する予定です。それと比較する種の写真は種に応じて決めていきます。色彩多型や斑紋多型のある種は重視して写真がある限り掲載したいと思います。また、リストにない種も比較で載せて欲しいといった御意見は承ります。

なお、これとは全く別にクモ基本図鑑は別の企画も進行中です。クモの網の本もいろいろ企画されています。談話会のみなさんの活躍により、クモ・ブームが来そうな予感がします。

クモ基本 50 掲載予定の種 (50 音順) 基本 50 種の候補は(*)印

アオオニグモ, アオグロハシリグモ(*), アカイロトリノフンダマシ, アサヒエビグモ(*), アシダカグモ(*), アシナガグモ(*), アシナガサラグモ, アシブトヒメグモ(*), アズチグモ(*), アズマキシダグモ, アマギエビスグモ, アリグモ(*), イエコウレイグモ, イオウイロハシリグモ(*), イタチグモ(*), ウヅキコモリグモ(*), ウロコアシナガグモ(*), オオシロカネグモ, オオトリノフンダマシ(*), オオヒメグモ(*), オナガグモ(*), オニグモ(*), カグヤヒメグモ, ガザミグモ, カタハリウズグモ(*), カトウツケオグモ, カニミジグモ(*), カネコタテグモ, カバキコマチグモ, カラカラグモ(*), カラフトオニグモ(*), キクツキコモリグモ, キシノウエタテグモ(*), キノボリトタテグモ, キハダカニグモ(*), キハダエビグモ, キバラコモリグモ(*), キヒメグモ, キララシロカネグモ, キンイロエビグモ, ギンメツキゴミグモ(*), クサグモ, クスミサラグモ(*), コアシダカグモ, コガタコガネグモ, コガネグモ, コガネグモダマシ, コガネヒメグモ, コクサグモ(*), コシロカネグモ(*), コハナグモ, ゴミグモ, コンピラヒメグモ, サカグチトリノフンダマシ, ササグモ(*), サツノミダマシ, サトヒメグモ, ジグモ(*), シボグモ(*), シモングモ, シヤコグモ(*), ジョロウグモ(*), シロカネイソウウグモ, シロスジショウジョウグモ, ズグロオニグモ(*), スジアカハシリグモ, スズミグモ, スネグロオチバヒメグモ, セアカゴケグモ, セマルトラフカニグモ, センショウグ

モ(＊), チビアカサラグモ, チリイソウロウグモ, チリグモ, ツシマトリノフンダマシ, デーニッツハエトリ(＊), ドヨウオニグモ, トリノフンダマシ, ナガコガネグモ(＊), ネコグモ(＊), ネコハエトリ, ネコハグモ(＊), ハイイロゴケグモ(＊), ハツリグモ, ハナグモ(＊), バラギヒメグモ, ハングツオスナキグモ, ビジョオニグモ, ヒナハグモ, ヒメグモ(＊), ヒラタグモ(＊), ヒロハヒメグモ, ヘリジロサラグモ(＊), ホシミドリヒメグモ, マエトビケムリグモ, マネキグモ(＊), マミジロハエトリ, マメイタイセキグモ, ミヤグモ, ムツトゲイセキグモ, ムナアカフクログモ(＊), ムナボシヒメグモ(＊), メガネドヨウグモ(＊), メガネヤチグモ(＊), メキリグモ(＊), ヤサガタアシナガグモ, ヤハズフクログモ, ヤバネウラシマグモ(＊), ヤマジグモ, ヤマシロオニグモ(＊), ヤマトガケジグモ, ヤマトコマチグモ, ヤマトフクログモ, ヤミイロカニグモ, ヤリグモ, ユウレイグモ(＊), ユカタヤマシログモ, ユノハマサラグモ, ヨツデゴミグモ(＊), ヨツボシワシグモ, ワカバグモ(＊), ワキグロサツマノミダマシ(＊), ワクドツキジグモ, ワスレナグモ

(池田博明)

クモが出てくる子どもの本情報(8)

「おんぶかあちゃん」ほか、近藤薫美子さんの絵本の紹介

萩野 康則

科学読物研究会は「すべての子どもたちに科学の本に親しんでもらうために、科学の本の研究、普及、創作を行う」ことを目的にした会で、本会会員の小峰光弘さんが会長をされていた時期もある。毎月発行の会報「子どもと科学よみもの」は、科学児童書に関する貴重な情報源であり、私は近所の図書館で時折チェックしている。2011年4月号ではクモの本の特集が組まれていて、その中で近藤薫美子さんの「おんぶかあちゃん」が紹介されていた。2004年に出版された本だが、うかつにも私はそれまでこの本はもちろん、作者のお名前も知らなかった。

その図書館で所蔵している本だったので、早速借り出したところ、大変ユニークな、印象に残る作風の本であった。近藤さんの他の作品も見てみたくなり、書籍検索サイトや図書館のサイトで探してみた。私が調べ得た範囲では、これまでに出版された近藤さんの本は26冊であった。このうちの25冊は図書館で借りることができ、残りの1冊は古書店から入手したので、全冊の内容が確認できた。その結果、大変多くの作品でクモが取り上げられていることが判明した。クモが主役となっているのは「おんぶかあちゃん」だけだが、場面のどこかにクモが出ているものが18冊もあった。そこで今回は、クモが登場する近藤薫美子さんの絵本19冊を、(冊数が多いので、いつもより簡潔に)紹介させていただく。

なお、はじめにお断りしておくが、出版社に確認したところ「おんぶかあちゃん」は現在品切れで、重版の予定もないとの由であった。私がこの本を新刊として購入したのは2011年の7月であるので、てっきりまだ在庫があると思っていたのだが、つい最近品切

れになったらいい。私は書籍紹介記事を書く際には、新刊として入手可能なものしか扱わない主義なので、本来ならこの本は対象外となる。しかし、近藤薫美子さんの「クモが出てくる本」を取り上げる際には、絶対に落とせない本なので、品切れではあるが例外的に紹介させていただく。また、「おんぶかあちゃん」以外の17冊にも、品切れが数点混ざっていることを、お断りする。

近藤薫美子さんは美術系の短大を卒業されたあと、製菓会社の企画室勤務を経てフリーのイラストレーター・絵本作家になられた方である。1978年に仏教説話の絵本の絵でデビューされ、1988年頃までは、他の方が書かれた童話絵本の絵や、読みものの挿絵を描かれていた。1989年頃から自著絵本を手掛けられるようになったが、最初期のものは文章が主役で、その説明のために絵があるような、いわば「普通の」絵本であった。ところが1992年発行の「にんきものずかん」から作風ガラッと変わる。この本から画面におびたしい数の虫が描き込まれた、大変存在感のある絵を描かれるようになった。そして文は、ストーリーを引っ張るというよりは、脇で絵をサポートするような存在になった。ただし脇役になったといっても、決しておざなりには書かれていない。言葉遊びや詩がお好きなようで、簡潔ながら、練りに練って考え抜かれた、凝ったものになっている。

画風はペン画に水彩が基本で、時おり色鉛筆やパステルのような、乾燥系の画材も併用されている。かなり漫画チックな絵から細密描写まで、幅広いタッチを描き分けられている。

近藤さんの絵本の特長は、その圧倒的に高密度な、虫だらけの絵にあるのはもちろんだが、もうひとつ、凝った趣向の構成も実に魅力的である。「ウォーリーを探せ！」風に読者に物や虫を探させる、本の天地を逆にすると別の話になる、ミニページや観音開きを使うなど、実に引き出しの多い人である。

また、おそらく「近藤」の「近」に由来するものと思われるが、ところどころに「Gon」というサインを入れられている。作品によって、本全体で1つの場合もあれば数個の場合もあり、ほぼ毎画面にある場合もある。探して見ろ、と言わんばかりに見つけづらいところに書かれていることもあり、この辺りにも作者の遊び心を感じる。あるいは私が見落としているだけで、実は全画面に書かれているのかも知れない。

もう一つの特徴は、ネガティブに見られがちな、ある意味で絵本ではタブーともいえる、動物の死や、他の虫を補食している場面を、多く取り上げていることである。ただし、ユーモアあふれる画面の中に散りばめられているので、変に暗く湿っぽくはならない。自然界に厳然とある事実を、さり気なく子どもたちに伝えている。

一枚描き上げるのに、どれだけ時間が掛かるのであろうか、と思わずにはいられない絵と、練りに練った文を、凝った構成で組み上げて丁寧に作られる本なので、一冊作るのには相当な手間と時間が掛かっている筈である。それをほぼ年1冊のペースで出版され続けておられるのは立派なことだと思う。いずれも珠玉の作品揃いであり、ファンが多いのもうなずける。最新作が2010年7月発行だから、そろそろ次の作品が出るころだろうか。楽しみに待ちたい。



なお、以下の各絵本の書誌情報中、在庫状況は 2011 年 12 月 22 日現在のものである。

近藤 薫美子（作）「おんぶかあちゃん」

A4 判 /30pp. アリス館 2004 年 4 月発行
ISBN978-4-7520-0268-0 本体 1,500 円【品切】

扉に「ウズキコモリグモの育児日記」と書いてあるとおり、孵化した子グモたちがバルーニングで分散するまでを、絵日記風に描いている。扉には「たまごのなかにいた日にち 23 日間」「たまごから生まれた日 5 月 7 日」「生まれたこどものかず 63 びき」などと書いてある。また、裏扉には「こどもをおんぶしていた日にち 11 日間」「さいごにせなかをはなれた日 5 月 17 日」「おんぶしていたこどものかず 68 びき」（増えている！）とも書かれている。これらは全て作者が実際に観察した結果に基づいているようである。

母グモは豆絞りの手拭いの子守被りにしており、子グモは色とりどりに描かれている。そして全ての子グモ 1 頭 1 頭に名前を付けているのだ！ このあたりが、近藤さんの面目躍如である。

各見開きページが 1 日の日記になっている。子グモが孵化して母グモの背中に乗った 5 月 7 日から始まり、ページを繰って 5 月 8 日はモンシロチョウやカマキリやクサカゲロウなどの卵が、ほうぼうで孵化し、次の 5 月 9 日はシデムシやハサミムシやオオムカデなど、哺育習性が知られている虫が子育てをする様子を描く、といった具合で、空に旅立つ 5 月 17 日まで続いている。私が特に可笑しかったのは 5 月 10 日で、母ちゃんコモリグモがやはり子どもを守っているエサキモンキツノカメムシと出くわし、にらみ合いになっている場面である。カメムシの陰悪な目つきが実にいい。

表見返しも裏見返しも、草原の様子を描いているのだが、表では盛んに咲いていたタンポポが、裏では綿毛になって、種子が空を飛んでいる。そして目を凝らすと、あちらこちらにバルーニングで飛んできた子グモが.... この、江戸の庶民が着物の裏地でお洒落をしたような、目立たないところに凝っているのも近藤作品の魅力である。

成本 和子（文）・近藤 薫美子（絵）キンダーメルヘン 1988 年 8 月号「つゆくさひろばはうたいっぱい」

24×24cm/26pp. フレーベル館 1988 年 8 月発行 250 円【品切】

いろいろなアリがつい毛虫に八つ当たり。毛虫→カタツムリ→カマキリと八つ当たりは連鎖する。ところがカマキリにののしられたカメはおちついてカマキリを讃える歌（譜面付き！）を歌う。これに喜んだカマキリはカタツムリに歌を送り、毛虫、アリへと返っ

ていく。いかにも幼稚園児向けのいい話である。

表紙と最終ページにコガネグモらしきクモと網が登場する。

近藤 薫美子（作）「にんきものずかん」

A4 判/40pp. ブックローン出版 1992年4月発行
ISBN4-89238-899-8 本体 1,400 円 [品切]

ムカデ、ナメクジ、ハエ、芋虫、毛虫、ミミズ、カ、ゴキブリの「にんきもの」の詩と彼らが捜している物の絵が見開きで描かれ、次ページ見開きの込み入った絵の中から捜し物を探す趣向。独特の詩？散文？が表見返しと裏見返しに印刷されているのだが、表はひらがなだけで、裏は漢字かな交じりであるのも面白い。病的なまでに高密度の絵と、軽妙洒脱な文。この一冊で「近藤薫美子ワールド」を確立してしまった、記念碑的作品である。

随所に種名不明のクモが登場する。



近藤 薫美子（作）「ぼくはどこぼくはだれ？」

A4 判/40pp. ブックローン出版 1993 年 6 月発行 ISBN4-89238-879-3 本体 1,400 円 [品切]

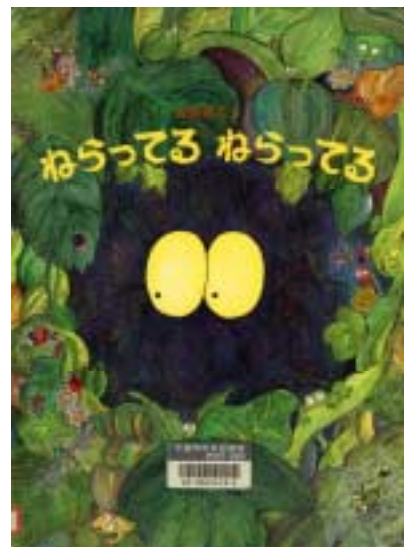
ホタルが卵から成虫になるまでを描く。見開きの込み入った絵の中から主人公を捜させるのは前作と同じ趣向。

全ての見開きページに種名不明のクモするほか、「おんぶかあちゃん」のモチーフであろうコモリグモ母子も登場！ 子グモはブルーニングする。

近藤 薫美子（作）「ねらってるねらってる ねらわれてるねらわれてる」

A4 判/24pp. ブックローン出版 1994 年 7 月発行
ISBN4-89238-855-6 本体 1,300 円 [品切]

普通に読むとアリジゴク→ハチ→クモ→カマキリ→ヤブキリ→カエル→ヤゴと、狙っている生きものが次の生きものに狙われているが、本の天地を逆さまにして読むと、逆順で狙われている生きものが次の生きものを狙っている、という凝った構成の本。本当に良く



できている、と感心してしまう。

随所に種名不明のクモが登場する。

近藤 薫美子（作）「くぬぎの木いっぽん」

A4 変判/28pp. ブックローン出版 1995 年 6 月発行 ISBN4-89238-840-8 本体 1,300 円

1 本のクヌギの木が切られると分かった時の、この木に住む虫たちの騒ぎを描く。地中→木の根元→幹→幹の内部→枝→樹冠と、木が切られる情報が伝わり、今度は枝→幹の内部...と逆順に、各場所での様子が示されるという、これも凝った構成である。シギゾウが穴の空いたどんぐりをできるだけ遠くに埋めるよう、リスに託すエンディングがシンミリさせる。

随所に種名不明のクモが登場する。

近藤 薫美子（作）「つちらんど」

A4 判/30pp. アリス館 1997 年 7 月発行 ISBN4-7520-0084-9 本体 1,5000 円

土中深くから根をよじ登り、最後はタンポポの綿毛へ。多種多様な土壌動物をこれでもか、と描いた本。おそらく近藤さんの絵本の中でも、作画に一番時間が掛かっているのではなかろうか？ はさみ込み付録の表面には「土のなかのぼく



たちを、さがしてみてね」として各種土壌動物の姿が描かれ、裏面には青木淳一先生の「地面の下で活躍するなかまたち」という魅力的な文章が載っている。

蛛形類ではササラダニ、ザトウムシ、クモ、ケダニ、トゲダニ、カニムシが登場する。

近藤 薫美子（作）「にんきものアルバム」

A4 判/36pp. BL 出版 1998 年 3 月発行 ISBN4-89238-681-2 本体 1,300 円 [品切]

「にんきものずかん」の続編。登場するのはワラジムシ、サソリ、ガ、カエル、ヤモリ、ダニ、クモ、カメレオンと、蛛形類が幅を利かせている。扉（ひらがなだけ）と裏扉（漢字かなカナ交じり）の詩？も健在。

サソリ、ササラダニ、コガネグモ似のクモが主人公として登場するほか、随所に種名不明のクモも。



近藤 薫美子（作）「のにつきー野日記ー」

A4 判/30pp. アリス館 1998 年 6 月発行 ISBN4-7520-0108-X 本体 1,500 円

野で死んだイタチの死体が，他の動物に食べられて骨と毛だけになり，最終的には何も見えなくなる様子を，日付けつき（おそらく実際に観察している）で刻々と淡々と描く．説明文は一切なく，文字は登場する小動物の吹き出し中の科白と擬音語のみ．それがまた効果的である．最後には死んだイタチの子どもが，親イタチの死骸を食べていた動物の象徴であるネズミを捕らえ，わが子に与える．動物の死と再生，食物連鎖を真正面からとらえた，ある意味で近藤さんの代表作といえる一冊である．

随所に種名不明のクモとダニが登場する．

近藤 薫美子（作）「たねいっぱいわったね」

A4 判/30pp. アリス館 1999 年 12 月発行 ISBN4-7520-0137-3 本体 1,500 円

近藤さんには珍しく植物の本なのだが，やはり小動物がたくさん，病的な密度の混みごみした絵に登場する．本文は全て「～たね」で脚韻を踏むほか，最終ページにも同様の押韻をする詩が載っている．表・裏見返しに 70 種のたねとその花の図が描かれている．

随所に種名不明のクモが登場する．

近藤 薫美子（作）「はらっぱハウス」

A4 判/30pp. アリス館 2000 年 11 月発行 ISBN4-7520-0168-3 本体 1,500 円

はらっぱ（水辺も含む）に住む虫たちの住居を，ミニページを使って図解している．一見，外側が見えているだけだが，ミニページをめくると断面が現れる趣向．表・裏見返しの種々の虫たちのモノローグも楽しい．

ナガコガネグモ，カバキコマチグモ，コアシダカグモが登場する．

近藤 薫美子（作）「すくすくのほら」

A4 判/30pp. アリス館 2001 年 12 月発行 ISBN4-7520-0192-6 本体 1,500 円[品切]

野原（水辺を含む）に住む 8 種の動物（ナミテントウ，モンシロチョウ，クサカゲロウ，アゲハ，アマガエル，ゲンゴロウ，ホソミオツネトンボ，ジョロウグモ）が卵から成長してまた卵を産むまでを図解する．最初，画面の中に卵だけが，離ればなれに描かれているが，ページをめくると食草や付着植物が現れる．以下，ページを繰るごとに描画範

囲が広がり、最後には水辺の草原の一つの景相にまとまっていく。表・裏見返しに 8 種動物の成長段階の図解がある。

近藤 薫美子（作）「のはらまつり」

A4 変判/30pp. 童心社 2002 年 7 月発行
ISBN4-494-00899-0 本体 1,200 円 [品切]

季節ごとの野原の様子の変ろいを、虫たちの祭りに見立てて表現している。表・裏見返しの「のはらのおまつりカレンダー」は一年 366 日の全ての日にまつりを割り振ってある。この凝り方、まさに近藤薫美子ワールドである。

表紙見返しにウズキコモリグモ、カバキコマチグモ、ゴミグモが、裏表紙見返しにトリノフンダマシ、アシダカグモ、種名不明のダニが登場するほか、随所に種名不明のクモも。



澤口 たまみ（文）・近藤 薫美子（絵）「むしっこいちば」

19×24cm/28pp. 教育画劇 2004 年 7 月発行 ISBN4-7746-0628-6 本体 1,000 円

ハナムグリの夫婦が幼虫を連れて、「むしっこいちば」という虫たちのバザー兼お祭り会場を、1 日掛けてめぐらる話。七五調の本文が心地よい。ハナムグリ夫婦の鞘翅に「パパ」「ママ」と描いてあるのが近藤さんらしい。

ジョロウグモ、コガネグモ類、ウズグモ類、オニグモ類、ゴミグモ類、サラグモ類、クサグモ類、メダマグモ、ナゲナワグモ、トリノフンダマシ、オオトリノフンダマシ、アカイトトリノフンダマシ、ジグモ？、コモリグモ類、アシダカグモ？のほか、随所に種名不明のクモが登場する。

近藤 薫美子（作）「まってるまってる」

27×22cm/38pp. 教育画劇 2005 年 7 月発行 ISBN4-7746-0672-3 本体 1,600 円

「まってる まってる なにを まってる？」の画面は観音開きになっていて、開くと何を待っていたかが分かる仕掛け。全体は春から始まり冬で終わり、最後のページが（春を）「まあって！」で終わっている。表見返しに緑地面に春の草原が白の線画で、裏見返しは茶色地面に落葉とどんぐりが白の線画で描かれているのも効果的である。

ナガコガネグモ？のまどいのほか、随所に種名不明のクモが登場する。「おんぶかあちゃん」も出てくる。

杵川 希（文）・近藤 薫美子（絵）「むしサッカー はらっぱカップ」

26x21cm/38pp. 教育画劇 2006年5月発行 ISBN4-7746-0704-5 本体 1,300円

文の杵川希(キネカワ イツカ)さんは視覚障害者サッカークラブに所属されている方。黒っぽい虫たちのチーム・クロッコバーンと、緑色の虫たち虫たちのチーム・ミドリスブラがサッカーの試合をするという、直球勝負のストーリー。いつもの近藤さんの変化球の筋書きに馴れるとちょっと物足りない気もするが、案外子どもたちには受けるのかも知れない。

ゴールキーパーがチュラ・タランという名のクモである。

近藤 薫美子（作）「どん・ぐりぞうのおはなし なんでもやのまき」

20x20cm/32pp. アリス館 2007年12月発行 ISBN4-7520-0387-8 本体 1,300円

シギゾウムシのぐりぞうが何でも屋を始めたところ、ハナムグリ、チョウの幼虫、それに例のコモリグモ母ちゃんが次々と客としてやって来る。「なんでもや」の看板に細工を加えるオチが素晴らしい！ 近藤さんには珍しく、鉛筆と色鉛筆を中心に描かれた絵である。

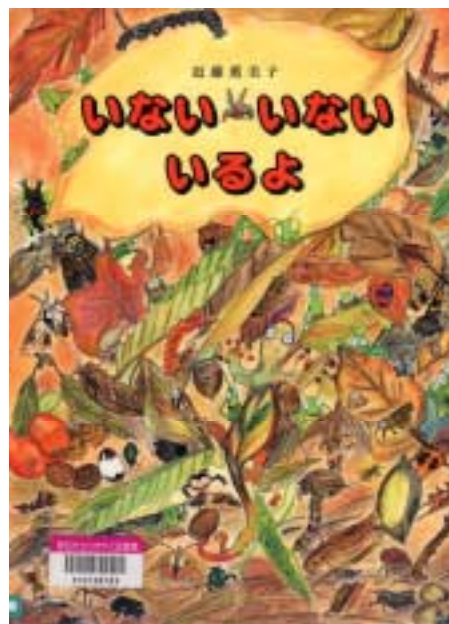


柴田 晋吾（作）・近藤 薫美子（絵）「なつですよ」

25x22cm/32pp. 金の星社 2009年6月発行 ISBN978-4-323-03112-5 本体 1,200円

「こんにちは、なつですよ」という語りかけの声とともに、森、山、海、田んぼ、川、湖、里山、町、公園、動物園、駅、海底、庭、プールと、さまざまな場所に訪れた夏を描写する。最終ページに人間が描かれているが、近藤さんの作品に人間が出てくるのは非常に珍しい。おそらく1987年の「水たまりの宇宙戦争」（南山 宏/作、岩崎書店）以来だと思う。「四季のえほん」というシリーズ名がついているので、続刊に期待したい。

随所に種名不明のクモが登場する。



近藤 薫美子（作）「いないいないのいるよ」

A4 判/30pp. アリス館 2010年7月発行 ISBN978-4-7520-0516-2 本体 1,500円

樹幹，草原，地表.... 一見何もいない野外風景だが，ページをめくるとそこではたくさんの虫が，動き，語り出す．圧巻は秋の林縁部の地表で，50 種以上の虫がうごめいている．たくさんの個体が登場している種も多数あり，総個体数はどのくらいになるのか，数える気にもなれない．裏返しには，全ページの縮小図が掲げられていて，登場する全ての虫の種名が示されている．表紙と裏表紙は一見同じ絵の鏡像だが，良く見ると違いが....

コマチグモ，オオトリノフンダマシ，オニグモ，アリグモ，クロトリノフンダマシ（註：シロオビトリノフンダマシ）や種名不明のクモが登場する．

前号の訂正

前号掲載の「クモが出てくる子どもの本情報 (6)」の編集作業において次の誤りがありました．すみませんでした．ここに訂正いたします．通信編集担当谷川明男

- ・ 6 ページ最終行 または 7 ページ 1 行

【全行削除】（重複）

- ・ 9 ページ 1 行

先頭の__年)__の前に，以下を挿入

【としては，「しろいうさぎとくろいうさぎ」（まつおかきょうこ/訳，福音館書店，1965）

- ・ 12 ページ最終行

【全行削除】（13 ページ 1 行の最初と重複）

- ・ 15 ページ 1 行

先頭の__「深海魚」__の前に，以下を挿入

【し，取り上げる生物の学名を表記していない点や，】

入退会は：事務局 初芝伸吾 186-0002 東京都国立市東 3-11-18-203

（有）エコシス

E-mail：hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

通信原稿投稿先：谷川明男 247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail：dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

通信の原稿締め切りは，4 月総会まで，8 月末，12 月末です．

KISHIDAIA 原稿投稿先：池田博明 258-0018 足柄上郡大井町金手 1099

E-mail：fwgd9084@mb.infoweb.ne.jp

キシダイアの原稿締め切りは，6 月末日と 12 月末日です．

※ 会員の皆さんからのご投稿をお待ちしております．